



毎日、ココルームが活動のなかで大切にしているのは、表現に至るまでの気持ちや時間。ぽぽぽと鼓動したり、ざらざらいたがゆかったり。名づけられないこの衝動抜きに、私たちの活動は語ることができません。本通信の番号は、ヨコハマトリエンナーレ2014で横浜美術館に展示している作品と対応しています。

2014年8月1日放送の「ぼえ犬通信」Vol.37

### 1 ココルームカフェ店頭看板

毎朝、開店準備をするときに必ずココルームの玄関に置く看板。いつもお店の前には様々なものがあふれているので、あっても気づかれず、なくても気づかれない。たまに誰かが飾りをつけてくれる。木で作られているココルームの文字は、猫君が作業所で作って来てくれた。自閉症の猫君は初見の人には喋らなくて、毎日ココルームに来るようになって**声を聞いたのは三ヶ月目**くらいだったか。やがて作業所に通うようになり、「ココルーム」を掲げてくれた。[山口諒子・上田假奈代]

### 2 ココルームの顔出し看板

2003年フェスティバルゲートではじまったココルームは資料室扱いで任意団体だった。この板は、はじめのスタッフ小崎くんが一芸披露のために作成したものだ。かつては板を支える台もあった。顔を出してみたくなるこの看板は、いまも一度見ただけで心に残る看板。カマン！メディアセンター（以下カマメ）の外壁にいつも立てかけられている。雨に降られ、風に当たり、外国人に顔をはめ込まれ、**ネコにすり寄せられ**、長年を過ごしてきた。独特の雰囲気をかもし出しつづけている。[假・沖田都]

2014年8月1日放送の「ぼえ犬通信」Vol.37

### 3 高木工房

これがいったい何からできているか、おわかりでしょうか。素材の正体は、大阪の激安スーパー玉出のちらし！釜ヶ崎にも四ヶ所ほどある玉出。このちらしの**薄っぺらさ**が重要なのだと高木さんは言う。釜ヶ崎や新世界のいろいろなお店で出会うことができるこの作品、ココルームにも高木さんがふらりと新作を持って来てくれる。[植田裕子]

2014年8月1日放送の「ぼえ犬通信」Vol.37

2014年8月1日放送の「ぼえ犬通信」Vol.37

1960年代、高度経済成長を底辺で支える日雇い労働者を集める寄せ場となる。劣悪な労働環境に暴動などが起こる。やがて1990年代から釜ヶ崎（あいりん地域 = **0.62km<sup>2</sup>**）では仕事が少なくなり、高齢化した労働者は野宿生活を余儀なくされる。2000年頃から生活保護受給者となる人も増えたが、多くの人は家族をもたない単身者のため孤住の傾向にある。60年代からメディアによってネガティブなイメージが定着し被差別地域状況に陥り、住民と（元）日雇い労働者の分断が広がった。コミュニティとしての統一性は阻まれ、むしろ分断されるという状態が再生産され続けているなかで、さまざまな人々によって取組みが生まれ、刺那緑や社会的つながりを育むコレクティブタウンの様相を呈している。[假]

2014年8月1日放送の「ぼえ犬通信」Vol.37

### 4 玄関のころうむ木札

紅茶配達人・小崎くん作。フェスティバルゲートのココルーム玄関のドアノブにかかっていた。プリコラージュの多いココルームだが、小崎くんはていねいに物作りをするのが好きな役者で、**いまだに**彼の作ったものはあたたかい手触りで存在している。[假]

2014年8月1日放送の「ぼえ犬通信」Vol.37

### 5 岡山さん

岡山さんの書く絵に登場するのは、豚、フグ、ひと。そしてなんだかわからない形に目鼻口が入った生き物。岡山さんはリウマチのため手が少しまがっているが、その手でうまく筆を持ち、静かに書く。色もひとつひとつ丁寧に塗る。岡山さんは身体を少し**かくっと**させて歩く。ダンスのワークショップが好きだ。まちのなかのおもしろいものを発見するのが好きだ。そして、クレーブ屋さんやスナック…まちのお店の手伝いをかけて出て、不思議なネットワークをもっている。最近はそれらの仕事のあとやって来る。岡山さんとの会話はなんだか独特の間合いをもつ。[裕]

2014年8月1日放送の「ぼえ犬通信」Vol.37

### 6 釜ヶ崎ねぶた

上田假奈代が青森で行なった事業の新聞記事を見たという、ねぶた絵師の対馬さん（大阪在住）が、釜ヶ崎でも小さなねぶたを作ろうと提案してくれた。釜ヶ崎で暮らす人の出身地には日本全国の地名が連なる。青森を故郷とする人が見てくれたら…という思いもあった。墨で絵を描き、ロウを入れ、色を入れる。染料は実際の**ねぶた**に使われるのとおなじものを使う。手づくりの木枠に貼り、できあがるとなんと鮮やかな色！これまで鮮やかになる。[裕]

## 7 アーティスト岡本

彼が釜ヶ崎芸術大学（以下、釜芸）にはじめてやってきたのは、音楽の授業だったか。サングラスをかけ、表情は読めないが、びっくりするほどのリズム感を持っている！その後も彼は、詩の授業などに顔を出し、文章を書き綴る。芸術の授業では、森村泰昌さんに「**芸術とは何か**」と問うた。ココルームでも、書いたり作ったり…。ある日突然「木ないんか？」とやってきて、木を探し続け、いつの間にかL字の木を手にはしている。次に来た時には、**たこ焼き入れの船**に彫刻刀を入れてやってきて、ココルームの店先で掘りだした。木くずをちらかして置いて行った。あとに残された木には不思議に惹きつけられる**少女の顔**。ぶっさらぼうに大量の食料を持って来てくれることも。[諒・裕・假]

## 8 トイレ型倉庫に閉まってある過去のポスター

ココルームやカマメで開く数々のイベントのポスター。基本手描き。**段ボールとかシーツ**、いまあるもので、イベント前につくります。みんな来てね、と想いを込めて。[小手川望]



手作りカンパ箱

ココルームの事業には、お金のない人にも気兼ねなく参加してほしいので、参加費を設定しないことが多い。けれど、それでもやっぱり**何かをするには**お金が必要だ。イベントの時には必ずカンパを呼びかける。おやつなどを出す時にもしつこく呼びかける。みなさん余裕があるときには1円～1,000円くらいのお金を入れてくれる。いつでもお願いできるように、カンパ箱が増えてゆく。そして！いまは釜芸2014開催と、このヨコハマトリエンナーレに釜ヶ崎の釜芸在校生とともに来るためのお金を集めている。クラウドファンディングで**300万円！**ぜひご協力をお願いします。[裕]
https://motion-gallery.net/projects/cocoroom（～2014.8末）

## 10 古い夏祭りポスター

釜ヶ崎の夏祭りはお盆に帰るところのない、帰ることのできない人のための一大イベント。その辺のミュージックフェスより盛り上がる。音楽のステージ、盆踊り、**すもう大会**、スイカわり、綱引き、安い屋台で舌鼓み。毎年8月13日から3日間。この告知ポスターは過去の名作の一つ。[遠藤智昭]

## 11 安藤画伯の絵

安藤画伯について書くのは難しい。安藤画伯は人間世界の数字で言うところ70歳。**閻魔さん**に来所を3回断られたそうだ。毎日6回程、ココルームにやって来る。この6年ほど、スタッフよりも皆勤だ。安藤さんはすぐにカッとして、人に手を挙げてしまう。勘違いがおきて暴力がスタッフに向かうこともあるし、警察沙汰になることもある。けれど長い時間をかけて、少しずつ話ができるようになり、悪いとわかれば謝ってくれるようになった。そして今では一緒にご飯を食べるようになった。カフェをはじめ訪れた若者はだいたい安藤さんの話し相手として捕まる。彼の口からは「赤ん坊のときから働いとるんや」とか「**銀河鉄道はわしがつくったんや**」とかそんな話が飛び出し、ぶっとんだおもしろさに、まわりにいるものは「正しいって何だっけ?」と考えずにはいられない。そして安藤さんが描くのがこの絵たちだ。安藤画伯は何か描きたいと思う対象が見つかった時にだけ描いてくれる。いつもはしゃべりまくりの安藤さんも、このときばかりは真剣なまなざし。画伯は言う。「假奈代さんがわしの下手な絵、好きって言うからな」。[裕]

## 12 紙芝居劇団むすび

釜ヶ崎にすむ生活保護受給者のおじさんたちが結成した、紙芝居もお芝居も歌も踊りもありの劇団、むすび。地域の内外で公演を重ね、ロンドンに公演旅行したり、宮城のほなみ劇団と交流したりしている。高齢化で亡くなるメンバーもあり、何回かのお葬式をへて、ゆるやかに世代交代し現在は60代のメンバーが一番多くなり、**とってても若返った**。長老となった、歌と踊りが得意な本所さんは最近退院された。これからも活躍してね。[望]

## 13 カフェの壁に貼っているもの

壁紙が見えないほど貼られた、たくさん紙。千社札か！と言わんばかりだ。古いものもあり、触れると壊れてしまうかもしれないので、みんな**そっと**眺め、いつの間にか上から新しい紙が重ねられている。[都]

## 14 ひと花センター

西成で暮らす単身高齢者で生活保護を受給している方たちの社会的**つながりづくり**のための居場所「ひと花センター」。地域の清掃活動などを行い、ココルームは詩や美術、書道など毎月十数プログラムをコーディネートしている。ひと花センターに通う方たちはココルームにもよく来てくれる。[都]

## 15 釜ヶ崎の思想を囲む集い

2010年に発足したこの小さな集いの案内文はこうだ。「『釜ヶ崎の思想を囲む集いー寺島珠雄編vol.1』釜ヶ崎には、さまざまなお出をもつ人々が集い、ともに生活と労働を積み重ねた歴史があります。この場所には、世の趨勢に抗うための知恵、**しぶとく生きつづける**ための知恵、共に生きていくための知恵、といった多様な知恵が、豊かに蓄積されています。社会そのものが流動化し、ひとりひとりが分断されている現在、この地で蓄積されてきた知恵には（反省や批判も含め）ふりかえり学ぶべきたくさんものがあるはずです。この集いでは、釜ヶ崎というこの稀有な土地で織り成されてきた思想を囲み、耳を傾け、語り合うことをつづけて、現代を生きるための知恵や構えを考えていきたいと思います」まさにこれが、釜ヶ崎芸術大学という企画の源流となった。[裕]

## 17 シンポジウム「アートの力を信じる」

大胆な名前がつけられたこのシンポジウムは、「コミュニティアート」って何なのかを問う事業から生まれた。あえて「信じる」と言わなければならなかった大阪の状況がある。**9時間にもわたる**伝説のシンポジウムとともに担ってくださったのは以下の方々。【ゲスト】アサダワタル（大和川レコード/日常編集家）、岩橋由莉（表現教育）、エメ・スズキ（ダンス）、遠藤水城（インディペンデントキュレータ）、甲斐賢治（オーガナイザー）、紙芝居劇「むすび」、小山田徹（美術家）、谷川俊太郎（詩人）、中川真（音楽学者）、原口剛（地理学者）【スカイプ出演】小沢健二（音楽家、NYから）、マット・ピーコック（ストリートワイズ・オペラ主宰者、イギリスから）[裕]

## 18 あしたの地図よ

描かれるのは、過去、現在、未来すべてだ。さまざまな記憶が重なって、一枚の大きな地図になる。**どこでもない地図**を作りたくて、森洋久さん（地理学者）といっしょに、この手法を編み出した。[裕・假]

## 19 旅するうちわ

夏、暑いココルームで大活躍するうちわは、東北からやってきた。仙台のアーティスト門脇さんが、**仙台で**こどもたちが片面に絵や文字を描いたうちわを持って来てくれ、**釜ヶ崎の夏まつり**でおじさんたちがもうひとつの面に自分の言葉を書いたものだ。[裕]

## 20 由良さんの割り箸バチ

釜芸の音楽の授業で、コップを叩いて出る音で音楽をつくらうということになった。**割り箸**で叩いていたが、成果発表会直前に由良さんが、色とりどりのチャーミングなバチを作ってきてくれた。[裕]

## 21 描かれたココルーム

すこしでも気をゆるすと物があふれる。せっぱつまってくると色を塗りたくなる。棚や冷蔵庫、ポット、段ボール、クーラー、いろんなものが塗られて描かれてゆく。**とうとう**ココルームも描かれてしまった。[假]

## 22 瑚春ちゃんのねこつうしん

2011年に埼玉県から釜ヶ崎に引っ越してきた瑚春ちゃん（当時小学2年生）。かずみさんの「ももんが通信」に影響されて**自分でも**釜ヶ崎で「ねこつうしん」を発行しはじめた。「ねこ巡りスポット」「ねこダンスナイト」などのイベントをマネジメントしたりも。[望]

## 23 カマン！メディアセンター

2009年カマン！メディアセンター始動。「みんながおしゃべりする状況」をメディアととらえ、活動してきた。この時つくられた小上がりには、一体どれだけの人が腰掛けたことだろう。ここはカマメの**えんがわ**と呼ばれている。（対して、ココルームカフェを象徴するのはちゃぶ台だ）[裕]

## 24 「孤独に応答する孤独」西川勝

「釜ヶ崎の死の研究」。高齢化しゆくまち、釜ヶ崎。血縁、地縁から外れてしまった人が多く流れ着くまちで、死はどのようにとらえられ、迎えられているのか。何ヶ月も遅れて訃報を聞くこともある。また普段着で**人を誘って葬式**に行くことが増えた。2011年から哲学者、文化人類学者、社会学者、現場の人間が研究会をつくり報告書に。[望]

## 25 えんがわおしゃべり相談会「関わりあいながら生きる ―聞くことと話すこと、その練習」

ここにいると、人々の話を聞くこと、そしてそれをうけて話をすることとはいったいどういうことなのだろうと、改めて考えることになる。とてつもなくしんどかった経験が語られた時、わたしたちは**どう聞くことができるのか**。一方的に話されるばかりで、こちらの話を聞いてもらえないとき、黙るしかないのだろうか。そんな時、ココルームのスタッフを支えてくれるのはこれらの言葉だ。「セルフヘルプミーティング」倉田めば／「心のケアとは何か」宮地尚子 [裕]

## 26 ゆるせつの会の議事録

カマン！メディアセンターの運営に関して、資金のこと、企画のこと、人員のこと、広報のことなど、センターをつかう人たちが会議を開いてくれるようになった。ゆるせつの会とは「**ゆるやかだけれどせつじつな会**」の略称。[裕]

## 27 「1974年大阪駅構内の手配師による半タコ部屋」井上登

三年前に立ち上がった「路上文学賞」で、この作品は奨励賞に選ばれた。内容については、登さんの**言葉**で実際に読んでいただきたい。ココルームは代弁してしまうことはできるだけしない。[裕]

## 28 ぼえ犬通信

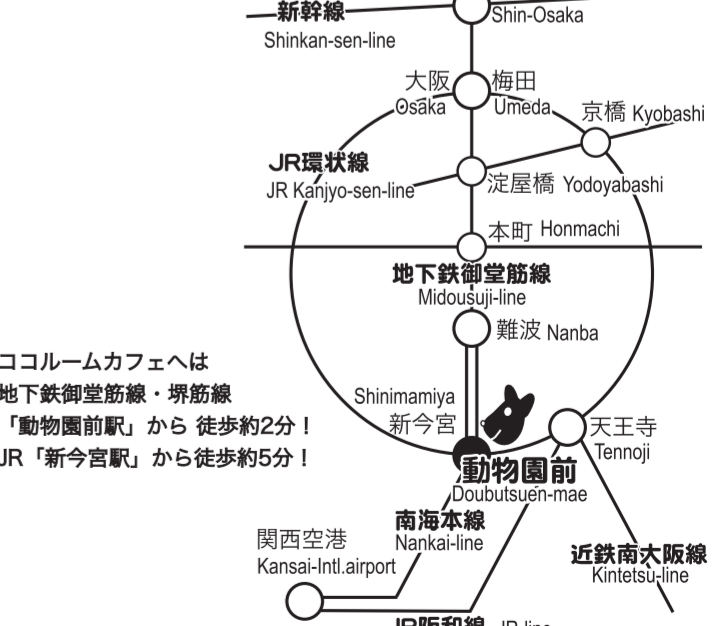
ココルームのわがまま通信。助成金によるものではないため、**好きなことが書ける！**話を聞きたい人に原稿を頼める！[假]

## 29 「路上」谷川俊太郎

谷川さんに手紙を書いた。「釜ヶ崎にきてください」と。翌日に電話がかかってきて「ぼくはことばのちからは信じてないの。お金のちからを信じてる」。詩人の**現実を貫く**言葉はヒリリだ。「お金のちからも大事だけど、それより、わたしは谷川さんに釜ヶ崎に来てもらいたいんです、そして釜ヶ崎の詩を書いてもらいたいんです」。こうして谷川さんと釜ヶ崎を歩き、ファックスで届けられた**詩**。[假]

## ココルームって？

2003年大阪市の新世界アーツパーク事業へ参画し設立したアートNPO。2004年法人化。地域や社会にアートがどのように関われるか、「表現」を通じて社会と接続する地平をさぐる。2008年、拠点を西成区釜ヶ崎の商店街に移し「インフォショップ・カフェココルーム」をオープン。2009年6月向かいに「カマン!メディアセンター」を開く。さまざまな分野と連携し、**喫茶店のふり**をして、であいとであいなおしの場をひらく。2011年から二年間支援付き集合住宅の管理業務に取り組むなど、分野や領域を選ばず、生きるための喫緊の課題に向き合うなかに、あらゆる人が**あたりまえ**に存在するために「表現」が大切な役割を果たすと確信している。2012年「釜ヶ崎芸術大学」を始める。2013年から西成区的生活保護受給者の社会的つながりづくり事業に参画し、表現プログラムを担当。[假]



## 30 「感謝状」秋葉忠太郎

ココルームがあるのとおなじ山王に住んでいた忠太郎さん。緑のベレー帽がトレードマーク、車いすで毎日お散歩して、ココルームの句会にも毎回投句してくれた。享年**101歳**。今年お亡くなりになる直前まで、新聞を隅から隅まで読んで、句作もされていたそう。[望]

### 31 仮面劇

2011年、そして2014年に、ポーロニャのフラテルナル劇団を招いて、釜ヶ崎のおじさんとともに仮面劇をつくった。ワークショップを2日間、3日目には本番という思い切ったスケジュール。皮の仮面はフラテルナル劇団からプレゼントされたもの。紙の仮面は、ワークショップのあと、おじさんたちが**なんとか仮面劇**を続けられないかと制作したものだ。「釜ヶ崎流仮面劇〜世界をひっくり返す即興劇」としてコクルームのお座敷で上演された。原発のことをテーマとしていた創作劇、怒号とヤジと歓声が響き渡った。〔裕〕

#### 32 假奈代さんへ、松ちゃんより

コクルームには、松ちゃんが何人かいる。この手紙はいつも假奈代さんの見える位置に貼ってあって、似顔絵が目につく。ご飯を作りながら見えるので気になっていた。「あの人かな?」と想像する。手紙は**押しピン**で貼ってある。ぶっさらばうに貼ってあるが大事にされているのが分かる。〔諒〕

### 33 新世界上空写真

1956年、二代目となる現在の通天閣が完成。3方向の放射道路はパリの街路をモデルとしている。奥は日本橋。右手は天王寺公園と動物園。手前は大阪市電天王寺車庫。ここに以前は遊園地の新世界上ルナパーク。1997年から10年は、コクルームが生まれた複合娯楽施設フェスティバルゲートがあった、うむ、**因縁**の場所。〔速〕

### 34 届く手紙

いくつもの出逢いと別れをくり返しているコクルームには、いつともなく、どこからともなく、手紙が届く。手づくり封筒、チラシの裏面に書かれた手紙、**ひとりごと**のような手紙。〔都〕

### 35 新・カマメ三ヶ条

最初から、あれはだめ、これもだめ、と言いたいわけではない。けれど、みんなでひとつの場をつかうためには、ルールを決める必要が出てくることもある。お酒を飲んで話がまったく届かない状況のおじさんには「今日はお帰ください。でもこんどまた、できれば酔っ払わずに来てね」と言う。今日だけの関係と思わずに、時間を信じて、**また出会える日**を待つことも大切だ。〔裕〕

### 36 手芸部パッチワーク看板

手芸部は何度でも復活する。トイレ型倉庫（と呼んでいるが、本当にトイレ）でこの看板をみつけた時には、目を丸くした。大切にされた時間だとわかる。そして今、また**トイレ型倉庫**に眠る。〔諒・假〕

### 37 石川さん

石川さんが好きなものは電車、コーナン。競馬、ポートも好きで、「今度こそやる」と言ったり言わなかったり。話し出すとずっと話しているが、文章を書きはじめると、**沈黙の集中力**で書き綴る。勢いもすごい。話し合いのとき、石川さんの、まったく文脈を無視したかと思いきや何か言い当てた言葉に、場がほっとほぐれることもある。〔裕〕

### 38 黄色黄緑ピンクコクルーム

派手なペイントがいろんな人の手によって、あちらこちらに散らばっている。**助成金のメ切間近**に塗り始める人もいるらしい。〔諒〕

釜ヶ崎芸術大学とは？
コクルームの小さなイベント「釜ヶ崎の思想を囲む集い(2010)」 「釜ヶ崎大学(2010-11)」の流れを継ぎ、2012年に開校。釜ヶ崎地域内のさまざまな会場を教室に、年に40〜60回ほどの授業を開く。教科は芸術、感情、書道、詩、写真、ダンス、哲学、天文学、表現など多岐にわたる。無料または望む金額で誰もが参加できる。一度だけでも参加可能。教科そのものについて学びたい人、その姿に「学ぶとは何か」を気づかされる人、そして釜ヶ崎というまちについて <b>いつの間にか</b> 学んでしまう人、自分とはまったく違う人との出会いを学ぶ人もいる。2014年、三年目をむかえる釜ヶ崎芸術大学は、親しみをこめて「釜芸（かまげい）」と呼ばれるようになった。〔裕〕

### 39 重なりゆく日々をどう展示するのか

コクルームの活動を、そこで生まれた作品を、展示するとはなんと難しいことか!いつもは画紙やテープで貼られ、破れたらテープでとめられまた貼られ、そんな扱いをされている。それでも大事なもののたちなのだが、美術館では「どこに破れがあるか、記録しておいた方がいいですか?」「習字は何枚ですか?」と聞かれる。そしてすべてのものは「見せ物」「見られ物」になってしまう。**ああ美術館**、なんと特殊な場所。〔裕〕

### 40 ミーティングのルール

フリースクールフォロに遊びに行ったときに壁に貼られているのを見た。気になり尋ねると、こどもの人たちが話し合いのためにつくったと言う。その後、コクルームで1万部配布の新聞を作ろうと思いつく。いろんな職場や事務所にこのミーティングのルールがあれば、会議を改善すると思ひ、写真家の森善之さんをフォロに派遣して撮ってもらった。新聞になって、謎の落書きといっしょに、どこかの壁で**会議の行方**を見守ってくれているだろう。〔假〕

### 41 コクルームレポート

コクルームの様子を書いているものたち。「ここは何してるどこ?」「喫茶店?」「怪しいとこやないの?」「森に入ったみたいやな」お客さんから、よく尋ねられる。スタッフでさえ「**何してるとこなんやろか…?**」と自問自答しながらやっている。でも「なんか好き」「気になって仕方がない」と何度も来てくれて、店の様子取材したり絵を描いたり録音したり。毎日様子が違うからレポートしてもし尽くせない。〔都〕

### 42 糸電話

こどものころ遊んだ糸電話。声が届いたことに喜んでいたな。大人になってなかなか**再会する**機会がないものが、コクルームにはよくある。糸電話は、地域にあるわかくさ保育園で作成されたものだ。〔都・諒・假〕

### 43 釜ヶ崎芸術大学布看板

校舎を持たず、街のなかのさまざまな会場を借りて開く釜芸。そのため、**これがあれば**釜芸の校舎になる!というアイテムは重要だ。〔裕〕

### 44 30年カレンダー

カレンダーには30年間の日にちが書かれている。そしてこうある。「伯母は言った『自分にこの仕事があってるか、どうか、わかるのには30年かかるのよ。』」カレンダーは私がコクルームにであった2007年からはじまっている。どう考えても向いていないと思えるような仕事も、身近な関係も、**ともかくコツコツ**、毎日を歩くこと、と思ひ聞かせる。〔裕〕

### 46 こころのたねとして

「人に詩を作らせるのが趣味」という、上田假奈代の詩のワークショップができあがった詩たち。自分で自分のことを詩にするのではなく、二人一組で相手の話を聞いて、それをもとに詩をつくる。そして相手にプレゼントするように朗読をする。「こころのたねとして」はその手法を指す。**誰かのための言葉**の集まり。〔都・裕〕

### 47 連詩

隣の人から回ってくる言葉を、目で見ても心の中で声を出してみる。自分の**言葉が出てこない**ときには、音になることもある。それを、書いてみる。また隣の違う人の手元に届く。文字が読まれるときの表情が見えると**ほんわり**笑いが出る。〔諒〕

### 49 てんじ会

よく来る人たちから「何か発表してみたい」という声があがっていたころ、はじめたのがこの会。コクルームのすぐ近くには、かつて「てんじ村」と呼ばれ、芸人さんが数多く住んでいたのだ。コクルームカフェの畳を舞台に、**ひとり5分**でできることを披露する。踊るもよし、歌うもよし、演奏するもよし、語るもよし!〔裕〕

### 50 写されるまち釜ヶ崎

いまでも「昭和のにおいがするまち」といわれ、カメラを持ってやってくる人がたくさんいる。「**カメラ向けんなや**」と怒鳴られることもあれば、「写真撮って」と積極的なおっちゃんも。ドヤ街、古くからのお店、おっちゃんたちの生活。絵になるまち。〔望〕

### 51 コクルーム設立趣旨

NPO法なるものに即して定款なるものを作ることになった。文化芸術を振興しながらこどもの人たちを想ひ、男女共同参画をして、**世界平和まで** 祈念する、なんだか地球におせっかいな生き方をしていくんだなあと思った。〔假〕

### 52 お泊まりするお人形たち

ご年配のシドウさんが連れてくるエミリーさん姉妹。「遊んでくれるかな?」とシドウさんが言う。ある日誰かが「人形」と言うと「エミリーちゃんだよ」と怒っていた。4人の姉妹がいるらしいが見分けがつかない。だいたい一人はコクルームにお泊まりしている。シドウさんからは「**僕が死んだら育ててね**」と言われていて、そのためのお泊まり練習なのだ。〔諒・假〕

### 53 釜ヶ崎芸術大学レポート

授業では毎回スタッフが記録係をしている。授業内容や参加者の様子をスタッフ自身の**目線**で書き込んでいる。「これが一番」という記録の仕方があるわけでもなく、試行錯誤のくり返し。そして釜芸に参加してくれた人たちが釜芸をレポートしてくれて、熱い思いが届けられることもある。〔都〕

### 54 賞状

コクルームにはいろんなものがやってくる。賞状の用紙もそのうちの**一つだ**。そして、コクルームには事務所がない。事務仕事をしているスタッフにどンドン話しかけて来る人には、「これに何か書いてみいひん?」と言ってみる。そんなときに変な素材というのは、いつもはでてこない表現をひきだしてくれる。けれど**まさか**、キャラメルポップコーンを表彰してくれるとは!〔裕〕

### 55 常くんからの手紙

東日本大震災のあとに、宮城県角田でお米をつくる常くんから**届いた手紙**。〔裕〕

### 56 カマン君の気持ち看板

コクルームのぼぼ対面にあるカマン!メディアセンターはコクルーム同様いつでもだれでもどんな人でも大歓迎。でもお酒をのんでトラブルを起こす人も多くて…。そこでカマン!の方は**思い切って**、お酒とタバコは遠慮してもらうことに。〔速〕

### 57 カマメの旗

トイレ型倉庫を、がさごそすると出てきたこの旗、**なんだか目にとまり**連れてきてしまった。〔諒〕

### 58 麦わら帽子

釜ヶ崎のことを学びたい知りたいさまざまな人たちを案内するまち歩き。およそ2時間弱かかる。（おひとり1,000円）日射しが強い日には帽子が必携なのでお貸しする。夏になると、現れるたくさんの麦藁帽子、**来る人行く人**に。〔速・諒・假〕

### 59 かまっぶ

東日本大震災のあと、釜ヶ崎には、関東からの避難者が多く集まった。宿泊代が安いからだ。そして、コクルーム周辺には「何かできるかな」という人たちが集まり、会議がひらかれた。まず「この街のいいところを紹介したい」と声があがり、まち歩きをしながらマップをつくるプロジェクトがはじまった。おじさんたちは「先週咲いたあざみの花」「**折り紙でいっぱいのコインランドリー**」など、この街で暮らしていないとわからないおすすめポイントを紹介してくれた。最後は手書きの文字をそのまま活かしたマップに。避難者の方のためになったとは言い難い。けれど、なんだかいとしいマップができた。〔裕〕

### 60 バザー!!!

カマメで広げられているバザー。服から置物、食器、いろいろ。**知らぬ間に**大セール看板ができていた。格安で手に入るので見に来てね。物品寄付も大歓迎。〔都・諒〕

### 61 ぼえ犬

コクルームのキャラクターは歯ブラシになる予定だった。「ぼえハブ」。みんなの虫歯予防と**歯磨き瞑想**タイムが役どころ。ところがみんなに却下され、愛すべき犬に。ぼえ犬は散歩に出かけて、いろんな人にてあろう。鼻をくんくんさせて帰ってくるといろんな話をしてくれる。コクルーム周辺にはあらゆるところに、ボエ犬が隠れている。〔假・諒〕

### 62 炊飯器

昼と夜のまかないご飯のために、毎日フル稼働の炊飯器。韓国出身の大学生が、一ヶ月間アートマネージメントの勉強でコクルームに滞在していた。ある日彼女に「**色を塗って**」とお願いしてみた。なかなか筆をつけれずに、けれど頭を沸かして色をつけてくれた。〔諒〕

### 63 産まれた

2010年、假奈代さんに赤ちゃんが産まれた。それはおじさんたちにとっても大事件だった。赤ちゃんはみんなに抱かれた。「誰の名前を最初に呼ぶかな」と楽しみにする人、「少し来ないあいだに忘れられてしまった」と嘆く人。そして翌年には小手川さんの娘さんもコクルームですごくすようになった。二人は時に姉妹のように遊び、喧嘩をしたりしている。おじさんたちも二人に会いたいとやって来る。いつも怒っている人も、二人には**メロメロだ**。二人は、時におじさんと遊び、ある時には嫌だと泣き、時にはつきりと言ひ返す…!たくましく、いろんな人のあいだで育てている。そして私たちは二人にずいぶん助けられている。〔裕〕

### 64 切り抜かれた新聞の数々

コクルームに直接関わっていたり、あまり関わっていなかったりする様々な記事の**切り抜き**。おかげさまで取材される機会も増えています。〔速〕

### 65 カマメでうまれた作品たち

カマメでうまれた作品は数知れない。作品をつくることは、さまざまな可能性の中から、自分で自分のことを選ぶ練習になる、と言う。そして、表現されたものは、**正しい、正しくないではなく**、「おもしろい!」と言ひあえる。やっと思ひ出されたその表現が、安心してうけとめられるそんな場を、大切にしたいのだ。〔裕〕

### 66 釜ヶ崎氷志句会

毎月一回、能面師の俳句の先生と句会を開く。その場にいる人にどンドン紙をわたして、一句書いてもらうが、真剣な顔で書いてくれる人も多い。歳時記に想いを巡らし、普段使わないあたまを使う大事な時間になっている。スタッフも仕事の手をとめ、**裏紙俳句**。季語が一ヶ月貼り出されている。〔諒・望〕

### 67 似顔絵

お客さんには、達者な方が多い。中でも絵は、独特の**存在**を放つ。スタッフの顔を描いてくれたり、お客さんがお客さんの顔を描いていたり。**似てないのに似てる**。〔都・假〕

### 68 コクルームカフェでのすごしかた

スタッフがばたばたと辞めてしまい、代表とスタッフ1人だけになったしまったことがあった。そのときに作ったのがこの「すごしかた」。いまでも、注文して自分で冷蔵庫を開けてビールを飲み、コップを洗ってお金を払って帰るお客さんがいてくれる。**皿洗いをしにきてくれる人も**。〔假〕

### 69 集まってくる作品たち

コクルームには絵や彫刻、俳句や詩など、みんなの作品が集まってくる。コクルームを**よく知らないのに**、何か作ったらコクルームへ持って行けばいいと、何かか思っけて持って来てくれることもある。〔望〕

### 70 まかないごはん

スタッフが少ないお給料でも生きてゆけるように、毎日昼と夜につくるまかない。お客さんも700円で一緒に食べられる。旅の人、学生、おじさんなど、はじめて会う人とみんなでひとつの**ちゃぶ台**を囲む。チケットを買うと少し安くなる。喫茶店のコーヒーチケットみたいに吊るされているチケットには、一つ一つ言葉が書かれている。たまに心の中で声を出して読んでみる。〔諒〕

### 71 やかんとポット

カフェの朝準備、最初にする事はやかんでお茶を沸かすこと。楽しいときも、しんどいときも、まずは「**お茶でもどうぞ**」。コクルームカフェは無料のお茶だけでも大丈夫（払える時は注文してね）。〔望〕

### 72 コクルームのスケジュール黒板

ぱっと見て、コクルームに関わる情報がわかるように、チョークで書く。右端に、注意事項や**備忘録**も。〔假〕



<div> <div><div><span>■</span>発行</div></div> <div>NPO法人こえとことばとこころの部屋（コクルーム）</div> </div> <div> <div><div><span>■</span>展示協力</div></div> <div>日本通運(株)関西美術品支店、竹内化成株式会社 関西ペイント株式会社、大塚刷毛製造株式会社 MotionGallery.incなどをとおして寄付くださった方々</div> </div> <div> <div><div><span>■</span>インフォショップ・カフェコクルーム</div></div> <div>住　所：557-0001大阪市西成区山王1-15-11</div> <div>tel&amp;fax：06 - 6636 - 1612</div> <div>営業時間：10:00～19:00ごろ　ほぼ年中無休</div> </div> <div> <div><div><span>■</span>ぜひ寄付をお願いします↓↓↓</div></div> <div>・三井住友銀行　天王寺駅前支店　普通1585265</div> <div>トクテイエイリカツドウホウウジン　コエトコトバトココロノヘヤ</div> <div>・郵便振替　記号01090-5-48059</div> <div>cocoroom代表　ウエダカナヨ</div> </div>